



日本への架け橋

・ 専門家が語る日本の教育制度と語学学習 ・

最終回

帰国後も海外での経験を活かしてほしい

文部科学省によると、海外に1年以上在留して2016年度(2016年4月から2017年3月)に帰国し、日本国内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校に在籍している児童生徒数は12,273人です。また、帰国児童生徒が多い都道府県は、順に東京、神奈川県、愛知、千葉、埼玉、大阪です。2017年度も1万人以上が帰国したと思われますし、今後も多数の生徒が帰国するでしょう。

帰国した児童生徒は、個人差はありますが、ほとんどが日本の学校に馴染んで、楽しい学校生活を送っているようです。それは、帰国する多くの児童生徒が、海外在住中にも補習校や日本人学校などで日本語での学習を積み、日本の文化に触れ、同年代の子どもたちと関わっていたためです。帰国を予定している場合は、海外在住中も日本語での学習を継続することが大切です。

また、海外で身につけた英語や楽器、スポーツなどの実力を発揮して注目されたという話をよく耳にします。帰国生受け入れ校は、帰国生が海外で身につけた語学や異文化が、他の児童生徒の外国語の向上や異文化理解につながることを期待しています。海外在住中に、できる限り英語力を向上させる努力が必要ですし、部活動や課外活動、ボランティアなどにも積極的に参加するとよいでしょう。

こう考えると、帰国後は帰国生受け入れに積極的で、英語や国際教育に熱心に取り組んでいる学校に入学や編入することをおすすめします。このような学校であれば、お子さんが学校に馴染みやすいだけでなく、英語力をさらに向上させることもできます。そして、国際感覚を持ったバイリンガルとして、グローバルな社会で活躍できる大人として成長することでしょう。

「日本の架け橋」の連載は、今回は最終回です。これまでの拙稿が読者の皆様のお役に立てれば幸いです。ありがとうございました。



丹羽 筆人 Niwa Fudehito

米日教育交流協議会代表。在外子女の日本語教育と帰国生大学・高校・中学入試のサポートを行なう。他にデトロイト補習授業校講師。

◆米日教育交流協議会

Tel : 1-248-346-3818 Web : www.ujec.org

bits
Toronto's No.1 Japanese Magazine

2018年4月13日発行号

www.bitsslounge.com